

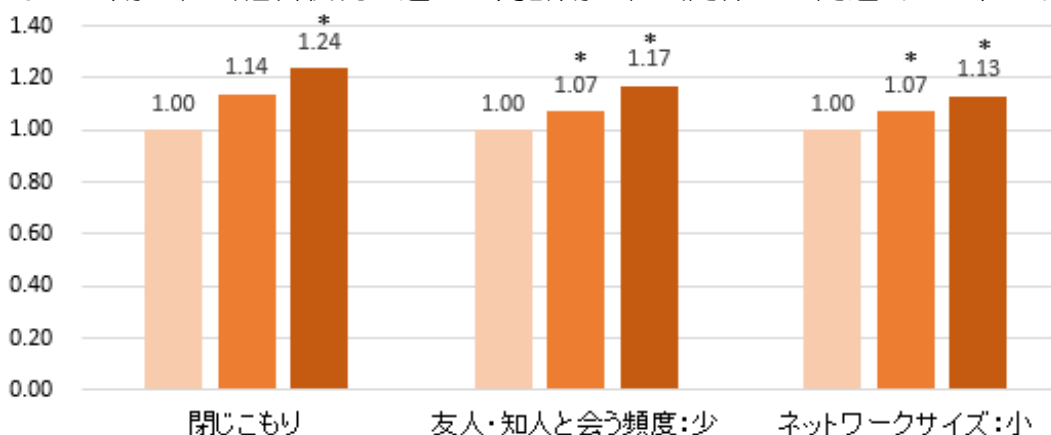
子どもの時の貧困は 高齢期の社会関係にも影響

～幼少期の社会経済状況低い場合に高齢期での社会とのつながりが希薄か。閉じこもり1.2倍～

子どもの時の生活環境が、高齢期の健康にも影響することが明らかになってきていますが、高齢期の社会関係にも影響を及ぼすのでしょうか。本研究では、要介護認定を受けていない地域在住の65歳以上の日本の高齢者21,004人を対象に、子どもの頃の生活レベルの程度と社会とのつながりとの関係を解析しました。子どもの時の生活レベルが低かったと回答した人（貧しかったと感じている人）は、高かった人に比べて、例えば、閉じこもりは24%高く、友人・知人と会う頻度が低くなるリスクは17%高くなる可能性が示されました。

お問合せ先：一橋大学社会科学高等研究院 特任助教 芦田登代 t-ashida@umin.ac.jp

子ども期の社会経済状況の違いと高齢期の社会関係との関連 (N=21,004)



* $p < 0.05$, 統計学的に有意な差があったことを表しています(得られた結果が偶然ではない)

グラフの値は、年齢、性別、教育歴や経済状況、就業状況、健康行動、治療中の疾患の状況、子どもとの同居状況、(人間関係を構築するうえで重要な要因として知られる)信頼の影響を調整しています。



子ども期の社会経済的状況 高 中 低

■背景

高齢期の社会関係は認知症の発症やうつなどの健康に影響することが明らかになっており、社会経済的な地位とも関連することが報告されています。しかし、子どもの頃の生活環境(社会経済的地位)が高齢期の社会関係に影響するのかどうかはまだ明らかになっていません。そこで、要介護認定を受けていない地域在住の健康な高齢者を対象として、子どもの頃の生活環境と高齢期の社会関係の程度との関連を検証しました。

■対象と方法

日本老年学的評価研究(JAGES)が2010年に、全国27市町村の要介護認定を受けていない65歳以上の高齢者を対象に実施したデータを使用しました。回収された調査のうち、歩行、入浴、排泄に介助が必要な人を除き、子ども期の社会経済的地位の質問に回答した21,004人のデータを分析しました。

子ども期の社会経済的地位は、「あなたが15歳当時の生活程度は、世間一般からみて次のどれに入ると思われますか」と質問し、「上」または「中の上」を高、「中の中」を中、「中の下」または「下」を低とした3群に分けました。高齢期の社会関係については、閉じこもり(外出の頻度が週1回未満)、友人・知人と会う頻度(「会ってない」「年に数回」を低群、「月1-3回」以上を高群)、この1か月に会った友人・知人の人数(ネットワークサイズ:5人以下との回答を狭い群、6人以上との回答を広い群)、スポーツ関係のグループやクラブへの参加頻度、趣味関係のグループへの参加頻度(「全く参加していない」「年数回程度」を非参加群、「週1回程度」以上を参加群)で評価しました。

子どもの頃の生活環境と高齢期における社会関係との関連に影響すると考えられる要因(性別、年齢、教育歴や経済状況、就業状況、健康行動、治療中の疾患状況、子どもとの同居状況、地域の人々への信頼の程度)を統計学的手法で調整して解析をしました。

■結果

子どもの頃の社会経済的地位が高い人に比べて低かった人は、高齢期の社会関係が希薄になるリスクが見られました。例えば、閉じこもりのリスクは24%、友人知人と会う頻度が低いリスクは17%、ネットワークが狭いリスクは13%高い可能性が示されました。子どもの頃の社会経済的地位の低さと現在の婚姻状況との関係には統計的に有意な関連は見られませんでした。

■結論・本研究の意義

子ども期の社会経済的地位の低さと高齢期の社会関係の希薄さとの関連がある可能性が示唆されました。社会とのつながりは運動や喫煙と同様に健康に影響を与え、また、困った時や悲しい時の社会的支援にもつながります。高齢期の健康維持・促進には社会とのつながりを涵養させることが重要ですが、この結果から、子どもの頃の生活環境を整備することは、高齢期の社会関係の構築にもつながる可能性があることが示唆されました。

■発表論文

Ashida, T., Fujiwara, T., & Kondo, K. (2022). Childhood socioeconomic status and social integration in later life: Results of the Japan Gerontological Evaluation Study. *SSM-Population Health*, 101090.

■謝辞

本研究は、日本老年学的評価研究(JAGES)プロジェクトのデータを使用し、科研費(JP15H01972)、厚生労働科学研究費補助金(H28-Choju-Ippan-002)、Japan Agency for Medical Research and Development(AMED)(171s0110002, 18le0110009)、the Research Funding for Longevity Sciences from National Center for Geriatrics and Gerontology(24-17, 24-23, 29-42, 30-30, 30-22, 20-19, 21-20); Open Innovation Platform with Enterprises, Research Institute and Academia(OPERA, JPMJOP1831) from the Japan Science and Technology(JST), World Health Organization Centre for Health Development(WHO Kobe Centre)(WHO APW 2017/713,981).などの助成を受けて実施しました。記して深謝します。